

今日のトピック 上昇の中休みに入った日本の小型株 米国市場を意識しつつ、企業活動の本格化を待つ展開

ポイント1 6月上旬まで堅調に推移した小型株 米国株式市場の上昇が追い風

- 日本株式市場は、新型コロナウイルスの感染拡大と経済活動の自粛の影響が懸念されつつも、3月16日の年初来安値以降、6月中旬まで堅調な推移となりました。主要国・地域が大幅な金融緩和と積極的な財政政策を推し進めたことが背景です。特に米国株式市場がウイズコロナ関連銘柄を中心に大幅に上昇したことで、日本の小型株市場にも追い風となりました。小型株の動きをTOPIX Small500で確認すると、6月10日の戻り高値まで36.9%の上昇を達成しました。中でも小型株のグロス指数の上昇率は42.9%に達しました。中型・大型株の動きを代表するTOPIX500の戻り高値までの上昇率が31.4%でしたので、これを大きく上回ったこととなります。

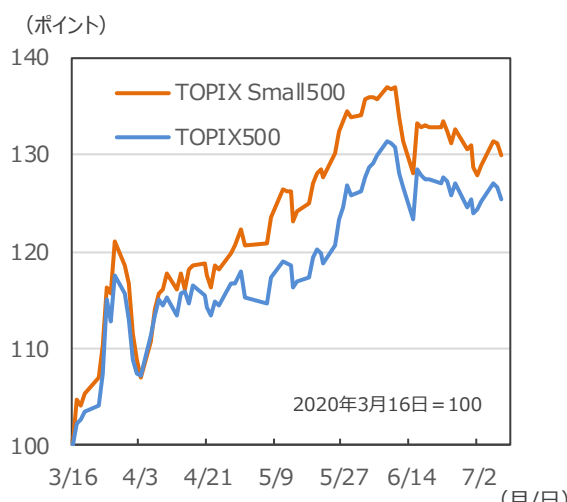
ポイント2 6月中旬以降軟調な展開 米国の新型コロナウイルス再拡大懸念が重石

- しかし、6月中旬以降は小型株のみならず、日本株式市場は上値の重い展開となりました。新型コロナウイルス拡大第2波懸念でNYダウが1,800ドル超の下落（6月11日）となったことや、中国でも再び感染者数が増加（6月15日）したことなど、新型コロナの再拡大に対する懸念が要因です。

今後の展開 米国市場を意識しつつ、企業活動の本格化を待つ展開となろう

- ウイズコロナ時代の株式市場をリードするセクターは、「情報技術」と「ヘルスケア」です。TOPIX Small500は、中・大型株の指数に比べると、「情報技術」のウエイトは高いのですが、「ヘルスケア」のウエイトが低いという特性があります。一方、「資本財・サービス」のウエイトが高いことを鑑みると、7-9月期以降の世界経済の回復が大きくなれば、生産の盛り返しと業績の改善期待も高まり、小型株が反騰する可能性はあると思われます。米国経済・株式市場、新型コロナの感染状況を意識した展開が続く中、企業活動がいつ本格化するかに注目したいと思います。

【TOPIX500とTOPIX Small500】



(注1) データは2020年3月16日～2020年7月8日。
 (注2) TOPIX500は中・大型株指数、TOPIX Small500は小型株指数。
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【指数別にみた業種別時価総額ウエイト】

名称	TOPIX	TOPIX 500	TOPIX Small500
資本財・サービス	21.7	20.9	27.0
一般消費財・サービス	17.1	17.0	19.1
情報技術	12.6	12.2	17.4
ヘルスケア	10.4	10.9	5.9
コミュニケーション・サービス	9.8	10.4	4.8
金融	9.2	9.5	5.9
生活必需品	9.1	9.0	9.4
素材	5.7	5.4	6.7
不動産	2.3	2.3	2.4
公益事業	1.6	1.6	1.0
エネルギー	0.7	0.7	0.7

(注1) データは2020年7月7日時点。
 (注2) 色は各指数内で2桁のウエイトを占める業種。
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここもチェック! 2020年7月 8日 吉川レポート：分岐点が踊り場か
 2020年6月26日 米国経済停滞懸念から弱含む日本株式市場

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。